

4 週間の地域医療研修において、新城市民病院、総合診療科での研修をさせていただき、ありがとうございました。研修医 2 年目の 7 月で自分の進路を考える上でも大変有意義な研修となりました。4 週間の初診外来や往診、作手診療所での診療を通して、豊橋市民病院の救急外来で緊急疾患の評価、除外などを中心とした診療とは違う一面を経験できたことはとても勉強になりました。Common な疾患を思わせる主訴の患者さんに対して、問診を丁寧に重ねていき鑑別疾患を絞る、基本的ですが一番難しいことだと再度気づかされました。4 週間研修する中で、症状をフォローして外来で経過を追うことができ、検診異常の方の検査、治療方針を立てていくことは新鮮で今後の診療に活かしていくことができると思いました。また、はっきりとした原因が分からず 1 週間後に再診し経過を見る方針となった方も指導医の先生方が、しっかり根拠を持って患者さんにも今後の方針について説明している点もとても印象に残っています。外来診療だけでなく入院患者さんも診ることができ、急性期だけでなく慢性期病床もありリハビリや医療保険、介護保険なども考慮して退院後の生活も視野に入れての診療は難しさもあり面白みもありました。これから来る超高齢社会、少子化社会の中で限られた病床、医療資源をうまく活用し、他職種で連携しながら医療を進めていくことが必要だとより感じました。

さらに往診や作手診療所での診療は、自分の思っていた地域医療の形に似ていましたが、実際は行為一つ一つが考えさせられるものとなりました。疾患に対するアプローチだけでなく患者さんの生活背景や意思を尊重しており、ただ疾患を治療する医療とは異なる、違った医療・介護の一面を見ることができました。病院や診療所へのアクセスが難しく、通院できない方にとって往診は思っていたよりもニーズがあるのではないかと考えさせられ、今後の地域医療、日本の医療の一つの形を担うものとなると思いました。往診で印象に残っている患者さんはアルコール性肝硬変、糖尿病の方で、お宅に伺ったときに内服薬と共にお酒の瓶が机に並んでいるところを目の当たりにしたことです。今まで自分の知っている医療では生活指導し、禁酒を勧め定期的にフォローを行うのが普通だと思っていました。しかし、家族と一緒に生活でき、自分の好きなことができる生活を支えていくのは在宅医療、家庭医療の醍醐味だと感じました。

その他にも、毎日の症例の振り返り、朝の勉強会など短い時間の中でも学ぶ機会があったのは有意義でした。特に印象に残っているのは EBM 勉強会で名郷先生と論文を議論しながら吟味することは印象に残っています。今後も自分次第でより新しい情報を手に入れることができ、実臨床に取り入れることの大切さを学ぶことができました。日々の診療の限られた時間の中でも少しでも学び、知識を得ることを重ねることは今後の自分の成長にもつながると思います。そうすることで結果、よりよい医療に繋がることになり、場所を選ばず最新情報を手に入れられる環境は生かしていく他ないと思いました。

最後になりましたが、4 週間と短い間ではありましたが、総合診療科の先生方をはじめ、多くの人にお世話になりました。地域医療研修で学んだことを、今後の医師人生に活かしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。